

ナキハクチョウの渡来

星子廉彰

061-0222 当別町元町104

2005-06年の冬に北海道帯広市と岩手県久慈市でナキハクチョウ1羽が越冬した。この種の日本への渡来記録は2回目である。

ナキハクチョウはハクチョウ類の中では大型で、嘴は大きく、嘴縁は赤色である。はき声がラッパのように響くのでトランペッターズワン(Trumpeter Swan, 和名はナキハクチョウ)の名がある。この種は繁殖期には北アメリカのアラスカなどに生息し、冬には北カリフォルニアまで南下する。留鳥性が強く、コハクチョウやオオハクチョウのような顕著な渡りをしないとされている。

ナキハクチョウ1羽が2005年10月24日、12年ぶりに帯広市帯広川に渡来し、ここに11月4日まで滞在した。帯広川は川幅20mほど、水深1~2mで、川底には細長い水草が生い茂っており、ナキハクチョウはこれを食べていた。さらに川岸に生えているキタヨシの若葉らしきものを食いちぎりながら食べてはしきりに川の水を飲んでいった。北アメリカの生息地では、これに近い環境で生活し、餌を食べていたのであろうと想像していた。この個体は、ナキハクチョウにしてはあまり小さく、声の小さいように感じられた。



図1. 帯広川に飛来したナキハクチョウ。

その後、2006年3月5～6日に岩手県久慈市の長内川にナキハクチョウが飛来したとの情報を得、ここを訪ねてみた。不思議なことに帯広川にいた40羽余りの親子連れのオオハクチョウの姿は見られず、帯広川とくに目についたコハクチョウが寄り添っていた。このナキハクチョウとコハクチョウはともに若い個体のようにであるが、4か月も観察していなかった間に、仕種、なき方が大袈裟になり、さらに人慣れした。おそらく次の秋の渡来時には子を連れて再びやって来るかもしれない。

長内川で観察したときには、このナキハクチョウは、一段と大声でよくなくように



図2. 帯広川以来の仲良しカップル。交互に同じ動作でなき交わす。

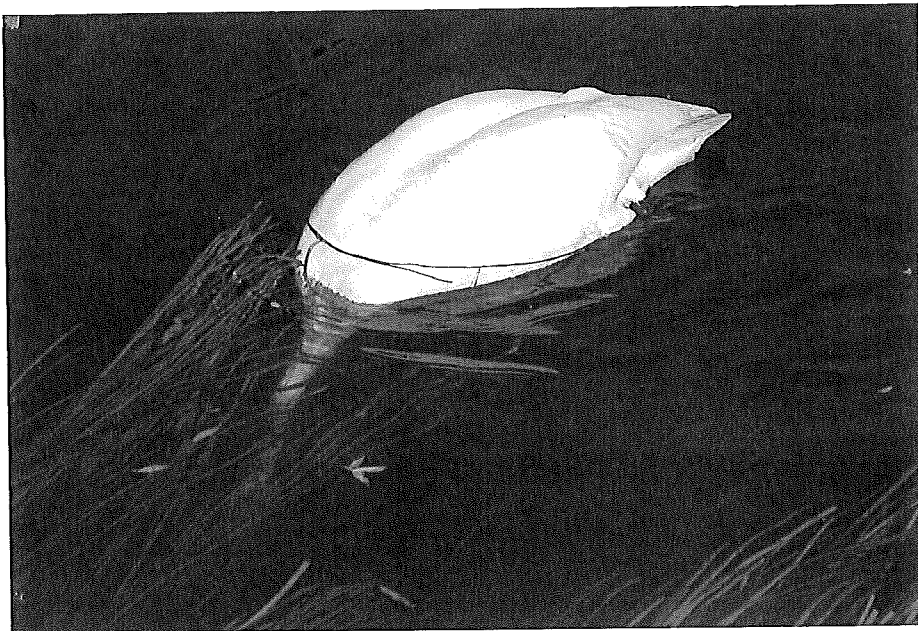


図3. 帯広川では川底に密生している水草を好んで食べていた。

なり、なき方も帯広川は二通りしか聞くことができなかつたのに、ここでは幾通りものなき声を聞くことができ、感激した。

3週間ほど後、このナキハクチョウが3月25日に長内皮から他のハクチョウとともに一斉に北帰行についたとの連絡があったので、早速北海道での情報を得ようと手配したが、ハクチョウ飛来地からはついにナキハクチョウの飛来情報は得られなかつた。



図4、帯広川ではキタヨシの若葉らしきものもよく食べていた。

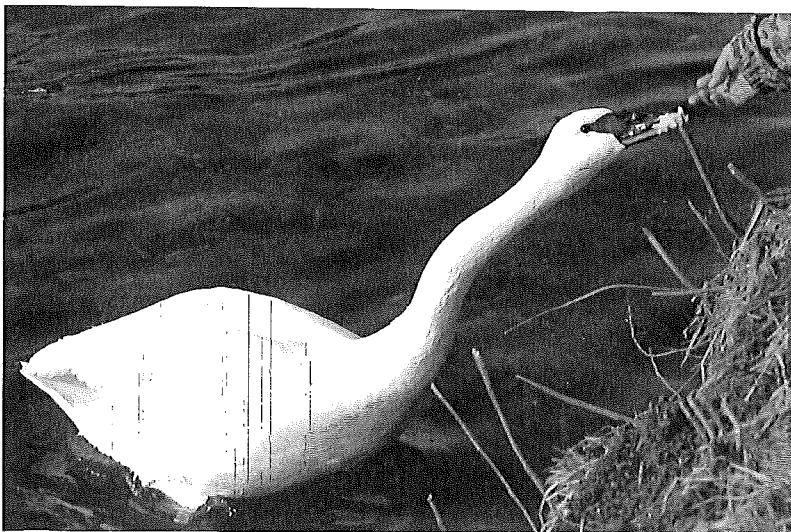


図5、帯広川では人慣れしていたが、長内川ではさらに人慣れしていた。